

令和元年度真庭市立 河内こども園 学校評価(自己・学校関係者)評価書

園長		評 価 基 準								
学校関係者評価委員 稲岡康晴 三村登 妹尾宗夫 山 友香 中井良徳	自己評価総合所見 今年度は研究テーマを「目指せ！本気で遊ぶ河内っ子～おどろき！ときめき！ひらめき！が生まれ育つ環境づくり」として設定し、これまでの保育内容の見直しを行うことができた。当たり前にしてきたことを改めて考え直すことで、一人一人の内面理解をすることが心の育ちに繋がることを再確認することができた。個々の心の動きを丁寧に見取り寄り添うことで情緒が安定しのびのびと活動できる主体的な姿となっている。また、4・5歳児になると振り返り時間を大切な場としており、互いを認め合いながら育ち合うクラスづくりとなってきている。職員の意識が変化したこと子ども達の成長に大きく影響したことから、限られた時間の中ではあるが、研鑽を継続し、主体性や対話の力を高める援助や環境づくりをしていきたい。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="text-align: center;">4</td><td style="text-align: center;">80%以上の達成感</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">3</td><td style="text-align: center;">60%以上80%未満の達成度</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">2</td><td style="text-align: center;">40%以上60%未満の達成度</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">1</td><td style="text-align: center;">40%未満の達成度</td></tr> </table>	4	80%以上の達成感	3	60%以上80%未満の達成度	2	40%以上60%未満の達成度	1	40%未満の達成度
4	80%以上の達成感									
3	60%以上80%未満の達成度									
2	40%以上60%未満の達成度									
1	40%未満の達成度									

評価領域	評価項目	評価指標	評価(自己)	結果の分析及び改善方策等	評価(関係者)	自己評価に対する意見等	
心も体も弾ませて意欲的に環境に関わることができる保育を創る	「やってみよう」と心を動かし主体的に遊ぶことができる環境づくり	①好きなことを見つけ楽しむことができる。(園児) ②幼児の興味関心を揺さぶる環境づくりを工夫している。(保育者) ③遊びや生活に意欲を持って取り組んでいる。(園児) ④自ら考えようとする気持ちを高める援助をしている(保育者)	4	②④自ら活動を選択して遊ぶ時間を増やし、その中での子どもの興味関心を捉えて素材や道具を用意したり、個々の願いに応じた援助をしたり、一人一人の内面を理解した環境づくりを意識するようになってきている。(成果) ①③自分のしたいことが明確になり、積極的に活動するようになってきた。また、イメージを共有しながら子ども同士で遊びを進めることができるようになってきている。(成果)	(今後の取組) 自ら選んだ遊びの時間とクラス活動とのバランスを取りながら、個々の技術面・コミュニケーション力の向上に努める。	4	○保育参観する中で、子どもたちが保育者の問いかけに対し常に様々な反応をしている姿が見られた。また、その際、自分の思いを言葉で表現したり伝えようとしたりしており、またその内容が通り一遍ではなく個性が発揮されていて多様なことにとっても感動した。この反応するということがとても大事である。素晴らしい子どもたちの姿である。(・興味関心がある・意欲的である・自分の思いを表現している。自ら取組頑張っているなど) ○よく挨拶をしている。感心している。 ○教育現場では記録することはもとより、明文化(記録・指導案等)することが求められている。記録することが目的になってしまうことは、職員の疲弊感となりやすい。小学校も同じであり、気を付けたいことである。職員が疲弊しないよう園(校)に合わせて働く環境を整えたい。
	感性を高める環境づくり	①自由にのびのびと自分の思いが出せるよう、温かい雰囲気づくりを心がけている。(保育者) ②自然に触れることを喜びその大きさ・美しさ・不思議さに気づくことができる。(園児・保育者) ③感じたこと・イメージしたことなど自分なりの言葉や表情で表すことができる。(園児) ④五感で感じたことを言葉で表現できるような援助をしている。(保育者)	4	①④子ども達が五感を通して感じたことを言葉で表現できるような援助を心がけるとともに、どんな小さな気づきや考えも大切なこととして受け止めることができるクラスづくりをしてきた。子どもの視点は保育者の予想を超えることも多く、振り返りの中で保育者自身の感性も磨かれることも多かった。(成果) ②③今年度も積極的に戸外に出かける機会を設けた。美しいもの・不思議なこと等心を動かす出来事に多く出会っている。外部講師(ネイチャーゲーム・小学校の先生)による自然物や生き物の観察眼を育む時間が、子ども達の興味関心を深め、自然の中での活動に意欲が高まってきている。(成果)	(今後の課題) 表現活動・製作遊びの時間を充実させる。(製作材料・表現に繋がるお話等)		
	思考力・探求心を高められる環境づくり	①試したり工夫したりする時間と空間の保障をしている(保育者) ②身近な自然事象に関心を持ち生活に取り入れて遊んでいる(園児) ③季節により自然や人間の生活に変化があることに気付く(園児)	4	①②自ら選んで遊ぶ時間が充実するように、時間調整や活動の場づくりなど、職員同士で工夫している。試す・工夫するなど科学的な探求心を膨らませて活動に夢中で取り組むようになってきている。(成果) ③季節ごとの行事については子どもたちにとって意義あるものになるように検討してきた。餅つき・クリスマス会・新年お楽しみ会・節分等、昨年度の取り組みも生かした意義ある行事となっている。(成果)	(今後の取組) 季節感が感じられるような活動を積極的に取り入れる。		
	こどもが真ん中のカリキュラムマネジメント(当たり前を見直す)	①保育指導案立案・振り返りに子どもの姿を大切にしている。(保育者) ②保育・行事等、職員の共通理解のもとに進めている。(保育者) ③専門性を高めるため、記録や省察時間の確保ができるよう工夫している。(保育者)	4	①今年度は職員が「保育を語る」ことを目標にして、園内研修を進めてきた。子どもの内面の読み取りにより保育指導案が作成されることの重要性を確認しながら進めることができた。 ②③記録や省察の時間を優先したり、これまで当たり前に行っていたことを「子どもの育ち」に視点を絞り検討や確認をして見直しをした。「こどもがまんなか」であることの重要性を共通認識することになった。(成果)	(今後の取組) 教育課程・年間指導計画の見直しを継続する。		
「みんなが楽しい」「みんなが楽しい」園生活を創る	のびのび生き生きと活動できる環境づくり	①嬉しいことだけでなく、つらいこと・困りごとなど職員に知らせることができる(園児) ②生活のルールは子どもの目線(視覚的・心理的)で決めたり子どもと共に考え直したりしている。(保育者) ③子ども達の動線を把握しながら整理整頓に心がけ安全に生活ができるようにしている。(園児・保育者)	4	①子ども達の心の動きを丁寧にみることで、言葉や表現できにくいつらさや困りに気づくようになった。子どものどんな気持ちにも寄り添うことを意識するようになってきている。(成果) ②③活動や生活のルールについて、子どもの思いや考えを聞きながら整えていくようにしている。子どもの心身の動きや発達段階・興味関心などに応じてルールを決めたり、話し合いで確認したりして、よりよい生活の場となるよう、保育者と園児が共に考えを出し合っている。(成果)	(今後の課題) 基本的な生活習慣・挨拶返事・後始末が定着するように一人一人に丁寧な指導をする。	4	○先生と子どもの関係がとても良好でよい。 ○研究会や参観日での様子を見て温かい雰囲気があった。 ○子どもたちがのびのびしている。 ○体を動かすことを積極的に取入れていることもよい。また、目標を持ち粘り強く取り組んでいることが伝わってくる。
	一人一人のよさや持ち味が活かされるクラスづくり・園づくり	①友達と一緒に活動することを喜んでいる。(園児) ②友達の持ち味やよいところに気付き認め合っている(園児・保育者) ③親しみを持った挨拶や返事をしている(園児・保育者) ④クラス内の困ったことやつらい出来事を自分のこととして一緒に考えようとする(園児・保育者) ⑤園生活の様子を保護者にわかりやすく伝えている(保育者)	4	①②③④アンケート結果により「友達と一緒に遊ぶこと」を楽しみにしていることがわかる。また、4歳児・5歳児になると、友達のよさや持ち味にも気づき、困ったことが起きると解決方法を一緒に考えたり、相談したりするような姿が増えている。(成果) ⑤通信を配布したり、降園時には個々にその日の出来事・取組の姿・心の育ち等、各々のクラス担任が保護者に伝えているようにしているが、やや分かりにくいこともあるので、伝え方に工夫が必要である(課題)	(今後の取組) 振り返り時間の充実と保護者に育ち(特に非認知能力の育ち)が分かる伝え方の工夫をする。		
	衛生的食生活を整え、安全で美味しい給食提供	①「お腹が減る」活動を積極的に取り入れている。(保育者) ②戸外遊びが大好きである。(園児) ③食べる時間を喜び、美味しく楽しい給食時間になるような工夫をしている。(園児・保育者) ④清掃・衛生管理・整理整頓など生活が安全で潤いのあるものになっている。(調理職員・保育職員)	4	①②自ら選んだ遊び・クラス活動ともに戸外で全身を使う活動を積極的に取り入れている。暑さ・寒さも気にせず、戸外活動に喜んで参加したり、自分たちで遊びをすすめたりするようになってきている。(成果) ③全学年が体を動かす活動で遊んでおり、食欲も旺盛である。残食はほとんどない。(成果) ④毎日の衛生管理に注意を払いながら給食業務にあたっている。また、調理員と保育職員の連携も密であり、園児・職員にとって安心・安全な給食提供になっている。(成果)	(今後の課題) 快食・快眠・快便を意識し、個々への援助を工夫する。		
保護者・小学校・地域との心の繋がり	保護者と繋がる	①子どもの体調・情緒などに情報交換して把握するようになっている。(保護者・保育者) ②基本的な生活習慣が身につくように保護者とともに丁寧に指導している(保護者・保育者)	4	①保護者の方が園行事を楽しみにしており、参観日・夕涼み会・ミニ運動会・生活発表会などを通して成長したことを共に喜び合うことができていた。(成果) ②挨拶・衣服の着脱・排泄・持ち物の始末など、個々の状況に応じた指導を心がけている。 ③降園時間が異なるため、保護者同士が情報交換できる機会が少ない。生活習慣やメディアコントロールなど課題解決に対して個別の対応となり、クラス懇談会・後援会活動等に繋げることができなかった。(課題)	(今後の取組) クラス懇談や個別の相談日を設ける。	4	○地域の人がもっと子どもたちに挨拶をすれば子どもたちも挨拶ができるのではないかと考える。小学校PTAとこども園後援会とが合同で講演を聞くことができるのは、共通理解・共有できるのでありがたい。今後も継続したい。 ○メディアコントロールの取組みについては情報を共有し家族で取組むことがよい。 ○お互いにアプローチができていないこともあるが、小学校探検や交流の後に探検地図・すくろく・ランドセルづくりなど、経験をすぐに取入れていて感心する。ありがたい。
	小学校と繋がる	①公開保育・公開授業に参加する。 ②教職員が互いの教育内容を理解しようとしている。 ③園・校長の情報交換をしている。	3	①②園児と児童との交流会では、小学生は優しく、頼りになる存在であり、毎回「楽しい交流会」になった。(成果)しかし、事前事後の話し合いができていく、園児・児童にとって互恵性のあるものになったかどうか、検証や共有ができていないことが多く園内の課題として捉えている。 ③今年度は話し合う時間の確保が困難であったが、評議員会に出席することで互い情報交換ができていた。(成果)	(今後の課題) 互い育ちを保障できるよう事前・事後の話し合いを大切に交流会を行うようにする。また、園側からのアプローチを積極的に行う。		
	地域と繋がる	①地域の良さや素晴らしさを理解し保育に取り入れている。(保育者) ②河内の地域の人や事柄に興味を持ち関わろうとしている。(園児)	4	①園外に出かける活動を計画的に且つ積極的に取り入れたことにより、自然物・自然事象・地域の方との出会いが、心を動かす体験の機会となった。(成果) ②園児が地域の方に招待していただいたり、園の行事に地域の方をお招きしたり、心温まる交流の機会に恵まれた。優しく穏やかな笑顔や声かけに、園児は満足感を味わっている。(成果)	(今後の取組) 園外保育を積極的に取り入れ河内のいいところが発見できるようにする。		

学校関係者評価総合所見	子どもと園職員の人間関係が大変温かく、子どもたちがのびのびと生活を楽しんでいること、どんなことにも興味関心を持ち、自分の考えや感じたことを言葉で伝えようとしていること、できるようになるまで粘り強く頑張っていることなど、様々な成長が見られた。挨拶やメディアコントロールについての具体的な取組については課題があるが、まずは大人が積極的に関わることが大切なことではないかと考える。小学校との連携では今年度のアプローチカリキュラムをベースに新たな交流を行うことができ、小学校の先生方の保育への理解がまた少し進んだと考える。子どもたちには小学校への憧れの思いが芽生えてきている。来年度は更なる相互理解が進む取組となることを期待する。
-------------	---

学校関係者評価を受けての対応	遊び込むことが学び込むことに繋がるという小学校との接続を視野に入れ、保育の充実を目指し、今年度は本気で遊ぶ姿を描きながら教材提供や言葉かけなどの援助や環境づくりを大切にしたい。また、個々の選択した活動に存分に取組めるよう、一人一人の心の動きを捉え、寄り添うことをベースに遊びや生活を子どもとともに創るようにしたい。個々の思いに寄り添うことにより何でも話せる温かい人間関係が構築され、結果、「何事にも興味関心を持って安心してかかわり意欲や粘り強さ」や「みんなが楽しい気持ちで過ごすための生活習慣の獲得や調整力」、「考える・伝えるなどのコミュニケーションの力」などそれぞれの成長が実感できるようになった。また、積極的に取組む職員の姿が、子どもと保護者の成長に繋がっていると理解できる。次年度も一人一人のよさや持ち味を認め合い育ち合う笑顔溢れる園を目指すとともに、課題となる小学校との交流がより互恵性のあるものになるように情報交換や参観の機会を増やしたい。
----------------	---